http://joonji.jp

真宗大谷派
浄恩寺

浄恩寺　雅楽葬　検索

令和４年　６月　第４５２号

浄恩寺同朋会報

電話　０５２－８８１－８４７４

「前坊守還浄」

四月十一日相生山病院転院後、奇跡的な回復がみられ、食事再開、車椅子、入浴、老健入所まで予定してお帰りましたが、五月十二日朝、安らかに息をひきとりました。その日、おお昼に帰宅。枕経を勤めました。末期の水は「スイカの絞り汁」でした。十三日湯灌、化粧、納棺。親しく心和むひとときだったと思います。

法名はずいぶん前から、母親らしい文字を選んでおりました。「浄咲院釋尼正蓮（じょうしょういんしゃくにしょうれん）」・・・買い物に出かけたら井戸端会議、お寺にお客様を迎えると喋るは笑うは、それが生き甲斐でした。「笑う」の旧字は「咲う」でした。そして、自分の生活スタイルを貫く逞しさ、それが「蓮」と俗名「正」です。自分らしく生きなさいと「蓮」は語ります。

今回の通夜葬儀は、家族葬で勤めることにしました。コロナ感染者を出さないためです。

母の遺影、旅の記念写真、娘が選んで飾ってくれました。昭和の灯火が静かに明かりを落とすなか、穏やかでほのぼのする情景が羨ましく想われました。

翌日、自宅を出る出棺勤行を勤め、棺を担ぐ儀式「肩入れ式」を子、孫、ひ孫で勤めました。

野卓（青竹で作られた祭壇）に火を灯し葬場勤行の始まりです。「五常楽急」を演奏して、導師を迎えました。

めずらしい儀式です。

導師焼香、喪主焼香、親族焼香と粛々と葬儀式は進みました。

よくぞここまで生きた命、奇跡の生きる力に感謝です。

5月のふくとたら
バラやネモフィが綺麗に咲きました。